

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495000091	事業の開始年月日	平成20年6月1日
		指 定 年 月 日	平成20年6月1日
法人名	有限会社 エー・イー・エス		
事業所名	グループホーム灯り		
所在地	(210-0834) 神奈川県川崎市川崎区大島 3 - 1 5 - 7		
サービス種別 定 員 等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名
		定員 計	8 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成23年2月5日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは閑静な住宅街にあり、近所には神社、公園、大島劇場、商店街、スーパー、追分まんじゅう、があり散歩、買い物などが便利で外出支援がしやすい環境です。事業所内に看護師があり、協力医療機関と連携し安心した医療を提供できています。経験豊富な介護職員が多く、利用定員が8名な事もあり、アットホームで手厚いケアを実践しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 神奈川福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月24日	評価機関 評価決定日	平成23年6月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 当事業所は、JR川崎駅からバス6分、徒歩3分の市街地にある。周辺は神社や公園、商店街が身近にある住宅街である。3階建てビルの1階は事務室で2階がグループホームとなっている。定員8名、職員11名が「一緒に笑って支え合う」という理念を基に明るい元気なホームを築いている。 【生活のリズムを整える日常的な外出支援】 ホームの近くに八幡神社がある。毎朝車椅子の人も皆揃ってお参りに行くことが日課になっている。1日の始まりに心を清め、健康や安泰を祈っている。午後は近くのスーパー、八百屋、商店街によく買物に出かけている。川崎大師まで遠出することもある。また、地域で育った人にはなじみのある名物の「追分まんじゅう」の買物に行ったり、図書館へ絵本を借りに行くこともある。夕方から夜9時頃にかけては、昔からある地域の芝居小屋・大島劇場に、毎月順番に芝居や踊りの見物に行っている。日中の活動の楽しさが安眠を導き、夜はぐっすり寝り、生活のリズムを整えている。グループホームらしさを出すには、新鮮な空気を吸い、地域や街の様子を日々知り、足を使う散歩が何よりも大切と捉え、積極的に行っている。 【働きやすい職場】 休暇の取得や研修、休憩時間の確保など福利厚生が行き届いている。近隣に住む職員が多く、常勤換算で8.6人と手厚い体制を取り、一人ひとりの利用者に対して目が行き届くケアを行っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム灯り
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のミーティングで理念の周知に努めています。地域の方も含めて「一緒に笑って支え合いながら楽しく暮らす」、「必要な時に必要なケア」の実践の向上に努めています。	事業開始時に職員と話し合いながらホーム長が理念「一緒に笑って支え合いながら楽しく暮らす。必要なときに必要なケアを」をまとめた。理念は毎日のショートカンファレンス（会議）の折に話題にしたり、連絡ノートに挟み、定着に努めている。利用者・職員共に明るい笑顔で楽しげな生活の様子が見受けられた。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外出時には近所の方々と気軽に挨拶、会話をし、日課である八幡神社へのお参り、行事がある際には積極的に参加しています。敬老会は町内会館を借りて地域の方を招待し開催しました。	町内会に加入している。餅つき大会や盆踊りに参加し、利用者が踊りを楽しんでいる。近隣の方々とは日頃の挨拶や、野菜をいただくなどのお付き合いをしている。近くの八幡神社の境内で行われる祭り・節分などの行事に参加している。ひな祭りには小学生がホームを訪れ歌や踊りを披露してくれた。職員は近隣に住む方が多く、地域情報も得られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩などの外出時、近所の方々と接し認知症を理解して頂けるよう努めています。地域の方がホームに相談に訪れて来られた際には親切丁寧に対応する事を心がけています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者の様子、サービス内容、地域における活動等の話し合いを行っています。色々な助言を活かしサービスの向上に努めています。	運営推進会議は、家族会代表、介護支援専門員、民生委員2名、老人会、地域包括支援センター、介護タクシー事業所などの参加を得て、本年度は3回開催している。ホームからは散歩コースや食事内容、感染症などを説明している。地域からは、「認知症に関する勉強や情報を発する拠点になってほしい」という要望が出されるなど、意見交換の場になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者事業推進課の担当者と相談や連絡を密にし助言や指導をお願いし協力関係を築くように取り組んでいます。	障害認定や紙オムツ支給、予防接種補助など生活保護の適用内容などについて、区の担当ワーカーと連絡を取っている。区が主催する「地域密着型の事業に対する講習会」等に参加し、グループホームの規定などについて指導を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルをもとにミーティングで勉強会をしています。玄関、階段は日中は鍵をかけず、職員の見守りにより、ケアし外出の際には職員が必ず付き添っています。	マニュアルに基づき「身体拘束をしないケア」についてショートカンファレンス（会議）で確認している。玄関、エレベーター、居室には鍵を掛けていない。利用者は日中共有スペースで過ごす方が多く、職員は利用者と共に過ごし、声かけや気配りをしながら見守っている。利用者一人ひとりに役割をもってもらうことにより、不安な気持ちを防ぎ安定した生活の継続を心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料をもとにミーティングで周知徹底しています。言葉かけも含め精神面での配慮にも注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料がありミーティング時に勉強会を開き理解に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧でわかりやすい説明を心がけています。疑問点、不明な点などの確認作業を行い納得して頂けた上で契約書にサインをお願いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族には、まめに意見、要望のお伺いを立てて対応しています。入居契約する際に事業所内、外部における相談窓口の説明をしています。	家族から面会時や電話などで意見や要望を聴取している。「散歩の途中に昔訪れた懐かしい場所に立ち寄って欲しい」「好きな食べ物を食べたい」など利用者の要望を介護計画にも反映させている。神社で敬老会を開催した折に、家族同士で自己紹介をしたり、介護に関わる互いの情報を交換し合う機会を作った。	ホームに意見を言いにくい家族もあることを考慮し、顔見知りになった家族同士が、交流を図り、家族の意見や要望を出しやすくする工夫を事業所から働きかけることを希望したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員との話し合いをする機会を設け意見を聞き検討、対応しています。管理者はミーティング時や日頃から多くコミュニケーションをとり意見や提案に検討、対応しています。	法人の代表者は年1回、職員と個別面談を行っている。代表は職員から仕事に対する取り組みを聞き、職員は考えを伝えている。管理者は毎日行われるショートカンファレンスに出席し、意見を聞いている。職員からは、嚥下体操の実施や散歩の前にラジオ体操を行うことへの提案があり、現在プログラムに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員から質問、疑問等ある時は、しっかり受け止めて誠意をもって受け答えしています。代表者からも職員に求めている事を伝え向上心をもって働けるように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は代表者に日々報告、連絡、相談を行っており個々の力量の把握に努め育成に対応しています。ホーム内に連絡掲示板があり外部研修の参加、資格の取得を促しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他の事業所の方と話しをしたり見学させて頂いたりして意見交換しています。同業者の方からの見学希望があれば気軽に来所してもらい交流しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の表情、言動から気持ちのサインをキャッチ出来るように努めています。24時間アセスメントシートに記録し様子観察し不安がなく安心できる為の支援方法を話しあっています。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期に利用者との面会の頻度を悩まれる家族が多く双方の立場になり検討、対応しています。家族が面会にいらした際には全職員が明るく笑顔で挨拶し関係づくりに努めています。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族が安心して頂けるように十分なアセスメントを行い環境の変化に慣れ、不安が少なく安心して生活してもらえるように支援方法を検討し対応しています。		
18		○ 本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする視点を強く認識し毎日の生活の中で傾聴に努め利用者の気持ちを理解し学ぶ姿勢を大切にし良好な関係作りに努めています。		
19		○ 本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所時や電話でホームでの様子を伝え相談させて頂いています。敬老会では家族と利用者が一緒に共同して楽しめるゲーム大会を行い盛り上がりました。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方などがホームに訪ねて来られた際など、また気軽に来て頂けるように言葉をかけています。川崎在住だった利用者には川崎大師、大島劇場などに行き支援に努めています。	海外在住の甥が来訪したり、正月には利用者の子どもや孫がホームを訪れてくる。訪問美容や電話、年賀状でのやり取りなど、利用者の馴染みの関係を継続する支援をしている。車椅子使用の利用者も含めて、神社にお参りに行ったり、名物の「追分まんじゅう」の買物に行っている。昔からあるこの地域の芝居小屋・大島劇場に、毎月、順番に芝居や踊りの見物に行っている。	
21		○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話したり支え合いながら共同作業がしやすいように心配りしています。家事、外出、ゲーム等、興味をもち一緒に出来る事を日々、検討し支援しています。		
22		○ 関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族やご本人がいらっしゃる所へ必要に応じて訪ねて行ったりして関係性を持続しています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の横にゆったりと座りたくさんコミュニケーションをとり希望をじっくり聞いています。日々のミーティングでは一緒に円を囲み意向の把握に努めています。	毎日のショートカンファレンスには利用者も一緒に加わり、利用者の意向を聞いている。意向表明が困難な利用者については、表情やしぐさなどから汲み取っている。個々の利用者に何らかの役割をもってもらうことについて職員は知恵を絞り、それぞれの仕事をお願いしている。毎日、近くの八幡神社へお参りに行っており、利用者にとって、お参りすることが一つの心のよりどころになっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査時に生活歴を詳しく聞きアセスメントしています。入居後も課題があれば家族に相談して把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送りの伝達をしっかりと行い全職員が情報の共有に努め利用者の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を活用し気付いた事、変化、出来事、家族の情報を記入し、日々のミーティングで話し合い当面の方向性を出し実践、検討を繰り返して取り組んでいます。	2人の利用者を2人で担当する居室担当制を敷いている。入居時には自宅を訪問し、基本情報・フェイスシートを作成している。入居後1～3ヶ月は本人の状況把握に努め、計画作成者を中心に職員で話し合い、介護計画を作成している。本人・家族の意向や医師の助言を基に、一人ひとりの状態を多面的に把握し、検討している。モニタリングを行い、基本的には6ヶ月に1回、変化のあるときには随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のミーティングで変化がみられた事、気づきを話し合い、見直し検討を続けサービスの統一をはかっています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望、状況により協力病院以外での通院の付き添い、送迎を行っています。併設の住居の方との交流も支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や医療関係者から見学、交流の依頼があります。利用者と近くの図書館に行き本や紙芝居を借りて来ては読み楽しまれています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関による月に2回の往診があり、家族の了承のもと連携先の病院から医療を受けています。受診の際には、なじみの看護師が多く安心して医療を受けています。	月2回提携医療機関の内科医師の訪問診療があり、その間の週は、訪問看護の健康チェックがある。歯科は月1回の訪問診療がある。受診の際には家族にも連絡し、医師からの指示や助言について情報を共有している。現在、入居前のかかりつけ医にかかっている方はいないが、定期健康診断については、それぞれの利用者のかかりつけ医にお願いし、家族が送迎している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調などに変化が見られた時は職場内、連携病院の看護師に報告し対応しています。夜間等も急変や心配と思える事があれば24時間体制で連絡が取れ対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携先の協力病院があり情報交換や相談がしやすい体制ができています。退院後の指導、アドバイスを頂いています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針について説明し理解して頂いています。重度化した場合や終末期の在り方は家族、医師、看護師とのカンファレンスで対応体制づくりをしています。	契約時点で重度化や看取りに関する考え方を提示し、利用者・家族の了解を得て実施する方針としている。現在まで看取りの経験はない。提携医療機関と24時間対応体制について話し合っている。重度化した場合には、再度家族、医療関係者、職員などで話し合いのうえ、対応することになる。終末期の介護については、事業所の看護師とも話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時での対応方法をホームに掲示してあり慌てる事なく対応出来るように努めています。救急救命法の研修に参加して取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士にきてもらい防災訓練を実施しています。今後運営推進会議等で計っていく地域とも協力体制を築くように努めていきます。	年2回、防災訓練を実施している。消火訓練、通報訓練、避難訓練を含む総合訓練や夜間を想定した訓練である。地域住民の参加は得られていない。水や米等非常食の備蓄をしている。煙探知機、消火器、自動通報装置が設置され、避難誘導図が掲示されている。	運営推進会議を活用し、防災における地域住民との連携を図る必要性を訴え、双方の利点を活用しながら防災訓練への互いの参加を推進することを期待する。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを大切に、人生の先輩から学ぶ姿勢をもち、敬意をもって接する事を心がけています。個人情報鍵のかかるロッカーに保管しています。	利用者の人格の尊重やプライバシーの保護について、事業所内研修を行っている。職員間で「言葉かけには気をつける」という共通認識を持ち、互いにチェックするよう常々話し合っている。職員の入職時には守秘義務に関する誓約書を求めている。個人情報の入ったパソコンにはパスワードを使用し、プライバシーの保護に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の横にゆったりと座り思いや気持ちの理解に努めています。ミーティング時に利用者を交えて話し合いに参加もらったりしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、外出、レクリエーション、入浴等、生活の中で本人の意思を尊重して支援しています。希望に添った暮らしが出来るように傾聴に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品、シャンプー等、一人ひとり、なじみの物を使用しています。希望を伺い職員が化粧、マニキュアのお手伝いすることもあります。衣類等の買い物も職員と好みの物を選んでいきます。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きし、利用者の嗜好の把握に努めています。出勤している職員全員が利用者と一緒に食事を楽しく食べています。	普段から、利用者の要望を聞き、メニューに反映させている。旬の食材や新鮮なものを取り入れ、クリスマスなどイベントでは行事食を提供している。誕生日には、その方の好きな食べ物やケーキを提供している。さやえんどうの筋取りや野菜の皮むきなど調理の下準備や食後の下膳などできることをしてもらっている。調理の得意な職員による手作り料理で、利用者に気配りしながら職員も一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録しバランスのとれた食事作りに努めています。摂取量が少ない方には職員と楽しく会話をしながら無理のない範囲で摂取して頂けるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛け誘導して本人の力に応じて介助、自立支援をしています。変化があれば必要に応じて訪問歯科を利用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、排泄チェック表に記録しており排泄パターンを把握しています。時間や本人の様子によるトイレ誘導を行い失禁を未然に防げるように支援しています。	排尿・排便を記録し、排泄パターンを把握している。タイミングを捉え、トイレの前誘導を行い失敗しないよう気配りしている。排せつはプライバシーに配慮し、さりげなく誘導し、トイレ内での介助をしている。同性介助も可能である。夜間は、自室でポータブルトイレを利用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物に配慮し、日課の散歩、体操をして運動を促しています。便秘がみられる方には医師の指示による便秘薬を必要に応じて服用し排便コントロールに努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴中は、なじみの職員とのコミュニケーションの場となっています。入浴拒否があれば時間変更や翌日などで対応しています。羞恥心の強い方には同性介助で支援します。	入浴は1日おきに午後から夕方にかけて行われている。希望者は、毎日入浴することも可能である。入浴は最もよいコミュニケーションの場であり、職員と利用者とは打ち解けた話をする機会となっている。入浴したがない人には、対応の職員や時間を変えて誘うなど工夫している。1日1回水を替え、ゆず湯や入浴剤を活用することもある。利用者の状態や希望に応じて、同性介助や個浴、シャワー浴に対応している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣を大切にし本人のペースで就寝されています。その日の体調などで休息の声掛けを促して支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイリングして連絡ノートへ記入し、全職員への申し送りを徹底しています。薬の変更の際には様子観察し変化の確認に努め医師に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を大事にして楽しみや役割になることを日々、探求しています。外出、家事、レクリエーション、体操、絵描き等、楽しみや気分転換できるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、お参りに毎日、出かけています。地域の行事にも積極的に参加し、家族と自宅へ行ったり、買い物、食事へ行かれる利用者もいます。	午前中に、近くの神社へ毎日散歩に出かけている。「お参りすること」が、利用者にとって気持ちの上で安心感になっている。午後は近くのスーパー、八百屋、商店街によく買物に出かけている。川崎大師まで遠出することもある。昔からある大島劇場で、夕方から夜の9時頃まで芝居を楽しんだり、図書館に行き絵本を借りてくるなど、利用者の楽しみを支援している。歩行の困難な方へは車椅子で支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際に家族と相談し本人がお財布を持って過ごすか決めています。本人の希望に添って買い物は食員と一緒に同行し支援しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が手伝い家族に電話し会話を楽しまれている事もありました。年賀状を送り合っている方もいます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾ってある花をみて喜ばれている様子です。季節を感じる行事や外出先で撮った写真をホームに飾りみています。冷暖房による温度調整、加湿器の利用など快適に保つよう努めています。	玄関、居間等の共用空間は採光、温度が適切に維持されている。リビングは絵画を飾ったり、利用者の作品や外出したときの写真などを壁面に飾っているが、季節感や潤いのある雰囲気になっているとまでは言えない。	共用空間のレイアウトは、季節感を取り入れ、家庭的なくつろぎの場となるよう、職員全員で知恵を出し合い、もうひと工夫を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気が合う利用者同士、自然に居室へ行かれ会話を楽しまれている様子が見受けられます。フロアで楽しそうに談話されている時などは少し離れた場所で見守りに努めたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にはこれまで本人が使い慣れた、なじみの物をお持ち頂けるようお勧めしています。入居後の必要な買い物は職員と一緒に行き好みの物を選んでもらっています。	収納箇所の多い設計になっている。入居前の使い慣れた家具を持ち込んでいます。家族の写真や自分の作品を飾って、利用者好みのマイルームをそれぞれが作り上げている。ベランダで植物を育てている方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、浴室等に手すりをつけています。居室の場所が分からなくなる事のある利用者にはドアに名前を明記して支援しています。		